

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
明治25 (1892)	6.21 8.	鉄道敷設法（法律第4号）公布第1期線として奥羽線編入（同法第7条） 調査開始（同年12月完了）建設予算1,585万7,658円 （明治26年以降12ヶ年間の継続費として。のちに増額され、期間も延長される。）
明治32 (1899)	5.15	<b>奥羽南線福島～米沢間開通</b> （明治27.2着工。当時は福島～湯沢を奥羽南線、湯沢～青森を奥羽北線と呼称。 <b>（板谷、峠、関根、米沢の各駅開設）</b> 福島～米沢間4往復運行（所要時間上り2時間36分、下り2時間35分）
明治33 (1900)	4.21	<b>奥羽南線米沢～赤湯間開通</b> （明治32.4着工） <b>（糠ノ目、赤湯の各駅開設）</b>
明治34 (1901)	2.15 4.11 8.23 10.21	<b>〃 赤湯～上ノ山間開通</b> （ 〃 ） <b>（上ノ山駅開設）</b> <b>〃 上ノ山～山形間開通</b> （ 〃 ） <b>（山形駅開設）</b> <b>〃 山形～楯岡間開通</b> （ 〃 ） <b>（天童、神町、楯岡の各駅開設）</b> <b>〃 楯岡～大石田間開通</b> （ 〃 ） <b>（大石田駅開設）</b>
明治35 (1902)	7.21 11.1	<b>〃 大石田～舟形間開通</b> （ 〃 ） <b>（舟形駅開設）</b> <b>〃 漆山駅開設</b>
明治36 (1903)	6.11 11.3	<b>〃 舟形～新庄間開通</b> （明治33.2着工） <b>（新庄駅開設）</b> <b>〃 中川駅開設</b>
明治37 (1904)	10.21	<b>〃 新庄～院内間開通</b> （明治33.2〔新庄～大滝〕、明治33.5〔大滝～湯沢〕着工） <b>（新町（現真室川）、釜淵、及位の各駅開設）</b>
明治38 (1905)	9.14	奥羽南線湯沢～奥羽北線横手間開通により <b>奥羽線と改称し、全線開通</b> （最終建設費2,750万7,081円：全線にわたり軌条30kg、9.1m：枕木12丁）
明治39 (1906)	4.16 11.1 12.25	福島～青森間に直通旅客列車運行（1往復、所要時間上り17時間16分、下り16時間58分） 「鉄道国有法」（法律第17号、明治39.3.31公布）に基づき、日本鉄道(株)青森～上野間（東北線）国有となる <b>大沢駅開設</b>
明治40 (1907)	5.19	上野～青森間に直通旅客列車運行（1往復：明治44.9.15 2往復、大正8.10.1 3往復）
明治44 (1911)	12.5	<b>金井(現蔵王)、東根の各駅開設</b>
大正2 (1913)	7.15 10.1	<b>泉田駅開設</b> 一等車連結廃止
大正5 (1916)	9.20 12.1	<b>新町駅を「真室川駅」と改称</b> <b>芦沢駅開設</b>
大正6 (1917)	12.20	<b>置賜駅開設</b>
大正7 (1918)	11.10	<b>袖崎駅開設</b>
大正9 (1920)	3.	上野～青森間直通旅客列車に食堂車連結

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
大正10 (1921)	7.20 12.15	<b>北山形駅開設</b> <b>羽前豊里駅開設</b>
大正11 (1922)	3.15	上野～青森間に急行列車運行（二等寝台車、食堂車連結）
昭和8 (1933)	9.25 10.17	上野～秋田間の急行列車に三等寝台車連結 <b>羽前千歳駅開設</b>
昭和16 (1941)	9.20	<b>大滝駅開設</b>
昭和24 (1949)	4.24 6.1 9.1	福島～米沢間電化(直流) 「日本国有鉄道法」(昭和23年12月20日、法律第256号)に基づく公共企業体として「日本国有鉄道」発足 赤岩～大沢間4駅スイッチバック通過線工事完了
昭和25 (1950)	12.20	上野～秋田間夜行急行列車を「鳥海」と命名（昭和30.7.1 特別二等車連結、昭和31.4.25 三等寝台車連結、昭和40.10.1 羽越線運行の列車名となる。）
昭和26 (1951)	3.1	<b>金井駅を「蔵王駅」と改称</b>
昭和27 (1952)	3.5 11.15	<b>北上ノ山、南出羽、高掬の各駅開通</b> （停留所） <b>羽前中山駅開設</b>
昭和29 (1954)	12.1	<b>乱川、蟹沢の各駅開設</b>
昭和30 (1955)	10.1	福島～新庄間に快速列車新設
昭和31 (1956)	11.19	上野～秋田間に急行「鳥海」(昼行)を運行（昭和32.10.1 食堂車連結） 急行「鳥海」(夜行)を青森に延長して、「津軽」と改称（1往復：昭和40.10.1 1往復増発、後に減便し、平成5.12.1 季節列車化）
昭和34 (1959)	6.1 9.22 12.1	米沢～秋田間にDF50運行開始(4両配置、4往復) 米沢～新庄間にDD4両投入 米沢(仙台)～酒田間に臨時特急「もがみ」運行開始 （1往復：昭和35.3.1 定期化後に羽前本荘まで運行） 米沢・仙台～秋田間（陸羽東線経由）に準急「たざわ」運行開始 （1往復：昭和35.3.1 定期化、昭和37.2.20 仙台～秋田～青森を1往復増発、また「千秋」と改称）



## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
昭和43 (1968)	7.25	<b>赤湯～北赤湯間複線化開通</b>
	9.8	<b>山形～北山形間複線化開通</b>
		<b>山形～羽前千歳間電化（交流）</b>
	9.22	<b>大沢～関根間複線化開通</b>
		<b>福島～米沢間電化（交流）</b> 福島～羽前千歳間自動信号化
	9.24	<b>上ノ山～蔵王間複線化開通</b>
		<b>米沢～山形間電化（交流）</b>
	9.25	鳥越信号場設置
9.29	<b>及位～院内間複線化開通</b>	
10.1	特急「やまばと」を電車化し、1往復増発（2往復となる。所要時間4時間35分、9両編成、昭和45.10.1 12両編成）	
昭和45 (1970)	6.30	<b>赤岩～板谷間複線化開通</b>
	7.1	上野～秋田間に臨時寝台特急「あけぼの」運行開始（1往復：昭和45.10.1 定期化所要時間12時間34分）
	10.1	羽前中山、袖崎、泉田の各駅が停留所化、羽前豊里駅が簡易委託駅化
		山形～秋田間に急行「こまくさ」運行開始（1往復：昭和53.10.2 山形～青森間に延長）
12.20	山形駅旅行センター開業	
昭和46 (1971)	9.17	<b>羽前中山～上ノ山間複線化開通</b>
	9.20	<b>板谷～大沢間複線化開通</b>
	12.10	<b>蔵王～山形間複線化開通</b>
昭和47 (1972)	3.15	特急「やまばと」1往復増発（3往復となる。所要時間4時間25分）
	12.12	奥羽本線電化複線化計画決定
昭和48 (1973)	1.24	奥羽本線電化起工式（新庄駅）
	4.12	集中豪雨により芦沢～舟形間不通（4.28開通）
	10.1	上野～秋田間寝台特急「あけぼの」1往復増発（上野～秋田1往復、上野～青森1往復となる。昭和57.11 上野～秋田1往復増発）
昭和49 (1974)	10.11	米沢～新庄間CTC使用開始
	12.10	散水式ポイント融雪装置設置（置賜、中川、芦沢）

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
昭和50 (1975)	2.1 2.3 2.7 8.6 9.5 9.10 9.17 10.13 11.25	東根駅が旅客駅化（貨物取扱廃止） 置賜駅が停留所化 中川駅が停留所化 集中豪雨により真室川～院内間不通（8.13開通） （大滝駅で土砂崩れのため津軽2号1両転覆、死傷者12名） <b>及位～院内間複線化開通</b> 舟形駅が旅客駅化（貨物取扱廃止） <b>芦沢～舟形間複線化開通</b> <b>羽前千歳～秋田間電化（交流）</b> （全線電化完成） 新庄～秋田間CTC使用開始 特急「つばさ」電車化（2往復、所要時間7時間35分）
昭和51 (1976)	3.1 4.1 8.1	特急「やまばと」に自由席（3両）新設 釜淵、及位の各駅が旅客駅化（貨物取扱廃止） 楯岡駅が旅客駅化（貨物取扱廃止）、及位駅が簡易委託駅化、釜淵、大滝の各駅が停留所化
昭和53 (1978)	2.5 10.2	舟形駅が停留所化 特急「やまばと」、特急「つばさ」各3往復L特急化
昭和55 (1980)	2.7 5.21 9.20	集中豪雨により大沢～関根間不通 北山形～羽前千歳間複線化工事着工 赤湯、糠ノ目駅が旅客化（貨物取扱廃止）
昭和56 (1981)	10.15	大石田駅が業務委託駅化
昭和57 (1982)	3.20 6.23 7.1 11.15	天童駅が旅客駅化（貨物取扱廃止）、真室川駅が業務委託駅化 [東北新幹線盛岡～大宮間開業] 特急「やまばと」、特急「つばさ」食堂車廃止 [上越新幹線新潟～大宮間開業] 新幹線接続特急体系整備（ダイヤ改正）
昭和58 (1983)	2.10 10.1	糠ノ目駅が簡易委託駅化 東根駅が業務委託駅化
昭和59 (1984)	1.4 2.1 12.1	板谷駅が旅客駅化（貨物取扱廃止） 貨物列車大幅削減、ヤードを廃止し、拠点間直行輸送体制へ転換 北山形、神町の各駅が旅客駅化（貨物取扱廃止） 福島～米沢間CTC使用開始 板谷、峠、大沢、関根の各駅が停留所化
昭和60 (1985)	3.14  8.1	[東北・上越両新幹線上野開業] 新幹線接続特急体系整備（ダイヤ改正） 昼行特急列車名を「つばさ」に統一（新幹線接続8往復、うち1往復のみ上野直通）、 急行「ざおう」2往復を特急化（「つばさ」） 板谷、関根の各駅が簡易委託駅化

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
昭和61 (1986)	4.1  7.3 11.1	<p>中川駅舎改築</p> <p>東根、真室川の各駅が簡易委託駅化</p> <p><b>北山形～羽前千歳間複線化開通</b></p> <p>新幹線接続特急体系整備（ダイヤ改正）</p> <p>特急「つばさ」2往復増発（うち1往復は季節列車、新幹線接続は10往復へ増加）</p> <p>山形～上野間の最短所要時間2時間台の実現（2時間58分）</p> <p>新庄、米沢の各駅が旅客駅化（貨物取扱廃止）、羽前千歳駅が簡易委託駅化</p>
昭和62 (1987)	8.1	板谷、関根の各駅が停留所化
昭和63 (1988)	3.13    4.1	<p>国鉄分割民営化後、初のダイヤ改正</p> <p>特急「つばさ」季節列車1往復が定期列車化</p> <p>上野～秋田間寝台特急「あけぼの」1往復廃止（上野～青森間2往復のみとなる。）</p> <p>米沢～山形間に通勤通学快速「あずま」下り1本新設</p> <p>新庄～山形間に快速「もがみがわ」上り1本新設</p> <p>大石田駅が旅客駅化</p>
平成元 (1989)	3.11	<p>特急「つばさ」1往復増発（新幹線接続は11往復へ増加）</p> <p>米沢～山形間に快速「あずま」上り1本新設</p>
平成2 (1990)	7.30 9.1	<p>山形～福島間の愛称が「山形新幹線」と決まる。</p> <p>山形新幹線改軌（平成2.9.18開始）に伴い、山形～福島間が単線運転になり、特急「つばさ」は7往復のみとなる。</p> <p>夜行特急「あけぼの」が1往復のみとなり、陸羽東線経由となる。</p> <p>急行「津軽」が仙山線経由となる。</p> <p>山形～新庄間に快速1往復運行開始</p> <p>大沢、峠、板谷、赤岩駅のスイッチバック廃止</p>
平成3 (1991)	3.16  6.20 8.27  11.5	<p><b>糠ノ目駅を「高畠駅」と改称</b></p> <p>夜行特急「あけぼの」にA、B個室が新設</p> <p>[東北、上越新幹線東京駅開業]</p> <p>山形新幹線工事に伴う区間バス代行輸送が始まる。（11月4日終了）</p> <p>特急「つばさ」が仙山線経由となり、5往復のみとなる。</p> <p>山形～新庄間に快速2往復増発</p> <p><b>山形～福島間の標準軌単線完成</b>に伴い、標準軌間用新型電車が運行開始する。</p> <p>快速列車名は「ざおう」</p>
平成4 (1992)	5.7 7.1	<p>福島で山形新幹線と東北新幹線のレールが連結される。</p> <p><b>山形新幹線が開業</b>し、「つばさ」が山形～東京間を14往復の直通運転を開始する。（最短所要時間2時間27分）</p> <p>初期トラブル発生するも、まもなく落ち着く。</p> <p><b>上ノ山駅を「かみのやま温泉駅」、北上ノ山駅を「茂吉記念館前駅」と改称</b></p>

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
平成5 (1993)	12.1	山形～秋田間のほとんどの普通列車が新型電車になり、到達時分等が短縮される。 仙台～新庄間に2往復の直通（スルー）列車新設 急行「津軽」（上野～青森間）が定期運行から季節運行となる。
平成6 (1994)	12.3	山形新幹線「つばさ」（山形～東京間）が14往復から15往復に増強される。 山形～院内間で、日中時間帯を中心に普通列車がワンマン運転化される。
平成7 (1995)	12.1	山形新幹線「つばさ」の普通指定車両が1両増結して1編成7両となり、輸送力が大きく向上する。
平成9 (1997)	3.22	秋田新幹線「こまち」開業に伴い、特急「こまくさ」の山形～秋田間がこれまでの4往復から2往復に、山形～横手間が1往復から3往復に運転区間が変更となる。（山形～新庄間4往復は変わらず） 県立中央病院等の移転を見越して、これまで通過となっている列車（上下5本）が南出羽駅に停車となる。 夜行寝台列車特急「あけぼの」（奥羽本線経由）と同「鳥海」（羽越・上越線経由）が羽越・上越線経由の「あけぼの」に統合される。 5.1 山形新幹線新庄延伸工事着工 10.1 快速「ざおう」1往復を普通列車化
平成10 (1998)	3.14 12.8 10.27	快速「ざおう」を廃止し、各駅列車化 大宮・福島間ノンストップつばさ4往復運行される。 つばさの曜日指定の臨時列車が運行される。 山形・米沢間上り快速列車を廃止 新庄延伸工事に伴う山形～羽前千歳間単線運転開始
平成11 (1999)	3.11 3.12 7.1 12.4	特急「こまくさ」廃止 新庄延伸工事に伴うバス代行開始（ラッシュ時天童～新庄間、それ以外北山形～新庄間バス代行） 新庄～秋田間 快速「こまくさ」2.5往復 新庄～横手間 快速「こまくさ」2.5往復 7.1 新庄延伸工事に伴うバス代行本格化（終日北山形～新庄間バス代行） 12.4 <b>山形新幹線新庄延伸開業</b> 山形・新庄間1往復、東京・新庄間8往復運転。最短3時間5分。 <b>楯岡駅を「村山駅」へ改称、蟹沢駅を廃止し、「さくらんぼ東根駅」新設</b>
平成12 (2000)	12.2	「つばさ」停車駅拡大（上野22回→24回、大宮28回→29回、郡山23回→24回） 在来線（山形～米沢間）の土曜日・休日運転の普通列車（1往復）を定期化 新庄～秋田間にセミクロス化した701系車両の導入 （最短所要時間山形～東京：2時間29分 新庄～東京：3時間7分）
平成13 (2001)	4.1 12.1	神町駅が業務委託駅化 「つばさ」停車駅拡大（上野24回→25回、米沢26回→28回、高畠10回→12回）

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
平成14 (2002)	4.1 6.1 12.1	東根駅が無人化 山形新幹線（福島～新庄間）の降雨に伴う運転規制値改正 「つばさ」が、東京発36分、東京着24分の等間隔ダイヤ化（一部の列車を除く。） 東北新幹線内の「つばさ」停車駅が、基本的に福島、郡山、宇都宮、大宮、上野となる （速達型などの一部の列車を除く。） 快速列車名の「こまくさ」廃止 土休日ダイヤの導入 （最短所要時間 山形～東京：2時間30分 新庄～東京：3時間14分）
平成15 (2003)	10.1	「つばさ」停車駅拡大（米沢駅に全列車停車）
平成16 (2004)	3.13 4.1	「つばさ」運転区間の変更（1本：山形始発を新庄始発に） 「つばさ」停車駅の拡大（赤湯駅・かみのやま温泉駅24回→26回） 新庄～秋田間の快速列車を普通列車化 釜淵駅、大滝駅、及位駅の各駅が無人化
平成17 (2005)	4.1 12.10	漆山駅が無人化 「つばさ」山形～東京間を1往復増発（15往復→16往復） 「つばさ」山形～新庄間（ノンストップ）1本が山形以北各駅停車
平成18 (2006)	4.1	神町駅が無人化
平成19 (2007)	2.28 7.1	羽前豊里駅が無人化 山形新幹線開業15周年
平成21 (2009)	12.5	山形新幹線新庄延伸10周年記念「SLつばさ10周年号」運転
平成22 (2010)	1.23	山形新幹線新庄延伸10周年記念「食べっしゃつばさ号」運転
平成24 (2012)	3.17 7.1 9.29	「つばさ」一部列車の最高速度が275km/hに向上 （最短所要時間 山形～東京：2時間29分、新庄～東京：3時間14分） 山形新幹線開業20周年 「つばさ」の全ての運行で最高速度275km/h （最短所要時間 山形～東京：2時間26分、新庄～東京：3時間11分）
平成26 (2014)	4.1 4.19 7.19	<b>山形駅でSuica利用開始</b> 山形新幹線の外装変更（～平成28.10） <b>新幹線初のリゾート列車「とれいゆ つばさ」運行開始</b>
平成27 (2015)	3.14 4.1 10.1	<b>天童南駅新設</b> 高畠、さくらんぼ東根、大石田の各駅が業務委託駅化 かみのやま温泉、蔵王の各駅が業務委託駅化
平成28 (2016)	4.1 10.29 11.26	村山駅が業務委託駅化 「つばさ」シルバー色ラストラン。全車両が新デザインに統一。 北山形駅リニューアル完成

## 山形県内の鉄道年表（奥羽本線）

令和7年6月現在

年	月日	事項
平成29 (2017)	7.1	山形新幹線開業25周年
平成30 (2018)	9.1	赤湯、天童の各駅が業務委託駅化
平成31 (2019)	4.6	「とれいゆ つばさ」車内リニューアル
令和元 (2019)	7.20 12.4	「とれいゆ つばさ」5周年 山形新幹線・新庄延伸20周年
令和2 (2020)	12.15	山形新幹線における携帯電話不感区間解消
令和3 (2021)	3.12 12.28	<b>赤岩駅廃止</b> 山形駅「びゅうプラザ山形」営業終了
令和4 (2022)	2.10 3.6 3.12 6.9 7.1	山形駅「駅たびコンシェルジュ」開業 <b>「とれいゆ つばさ」運行終了</b> 「つばさ」全車指定席化 山形新幹線開業30周年を記念したつばさラッピング車両運行（同年11月末まで） 山形新幹線開業30周年
令和5 (2023)	2.11 10.15	「つばさ」E3系シルバー色1編成・復活運転開始 山形駅（山形新幹線、奥羽本線ホーム）発車メロディを山形交響楽団演奏の「花笠音頭」に変更
令和6 (2024)	3.16 7.25 9.1	<b>「つばさ」新型車両E8系運転開始</b> （最短所要時間 山形～東京：2時間22分、新庄～東京：3時間7分） <b>かみのやま温泉駅～村山駅でSuica利用開始</b> （山形駅のみ平成26.4.1導入済） <b>集中豪雨により新庄～院内間不通</b> 新庄～院内間で代行バス輸送開始
令和7 (2025)	4.25	<b>新庄～院内間の鉄道運転再開</b> 新庄～院内間に電気式気動車（GV-E400系）を導入し、電車線（架線）設備を順次取り外し